

## Ⅲ 生活機能評価等に関する分析

### Ⅲ 生活機能評価等に関する分析

#### 1 機能別リスク該当者割合の分析

##### (1) 運動器

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、5項目のうち3項目以上に該当する人を運動器のリスク該当者と判定しました。

##### 【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問2(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	3. できない
問2(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	3. できない
問2(3)	15分位続けて歩いていますか。	3. できない
問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある
問2(5)	転倒に対する不安は大きいですか。	1. とても不安である 2. やや不安である

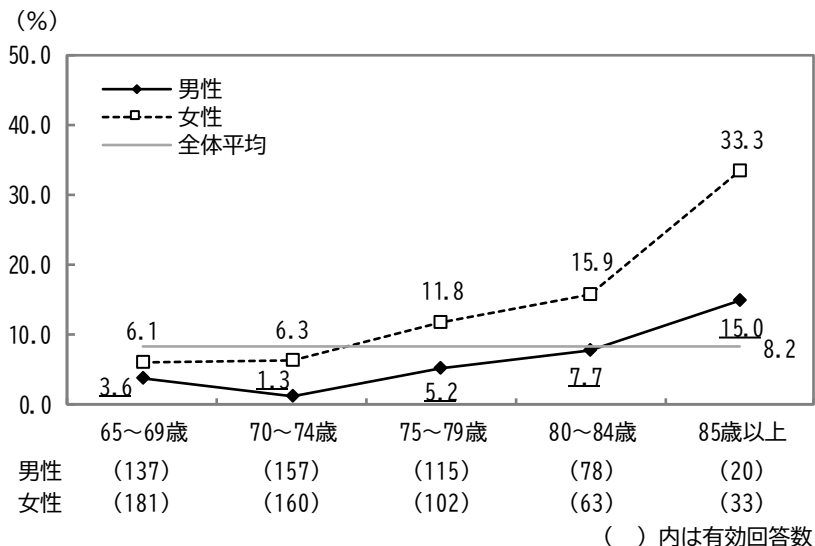
##### 【リスク該当状況】

国の手引き(※)に基づく運動器の評価結果をみると、全体平均で8.2%(90名)が運動器の機能低下該当者となっています。

性別・年齢階級別にみると、女性では、すべての年代で男性に比べ該当者割合が高く、85歳以上では33.3%(11名)と80~84歳(10名)に比べ17.4ポイント上昇しています。一方、男性では、85歳以上では15.0%(3名)と80~84歳に比べ7.3ポイント上昇しています。したがって、男性、女性ともに85歳以降で運動器におけるリスクが顕在化し、特に女性でリスクが高くなっています。

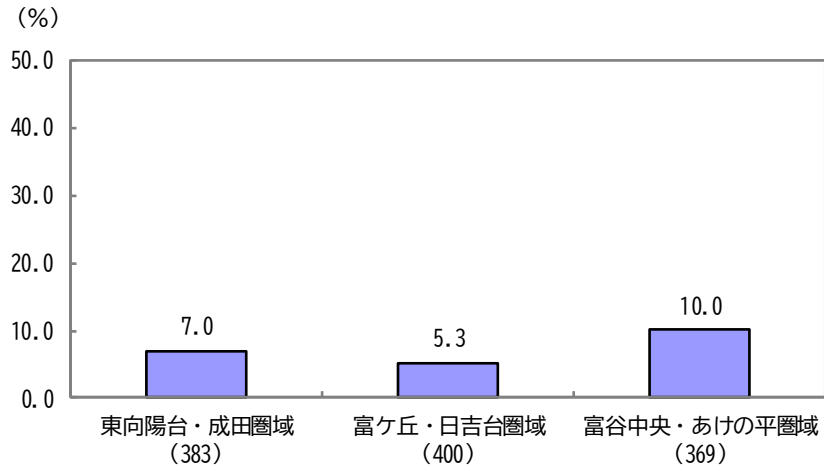
※平成21年3月「介護予防のための生活機能評価に関するマニュアル」

【性別・年齢階級別】



圏域別にみると、富谷中央・あけの平圏域で該当者割合が全体平均の8.2%を超えています。  
 また、最も高い圏域は富谷中央・あけの平圏域で10.0%、最も低い圏域は富ヶ丘・日吉台圏域で5.3%となっており、4.7ポイントの差となっています。

【圏域別】



## (2) 閉じこもり

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を閉じこもりのリスク該当者と判定しました。

### 【判定設問】

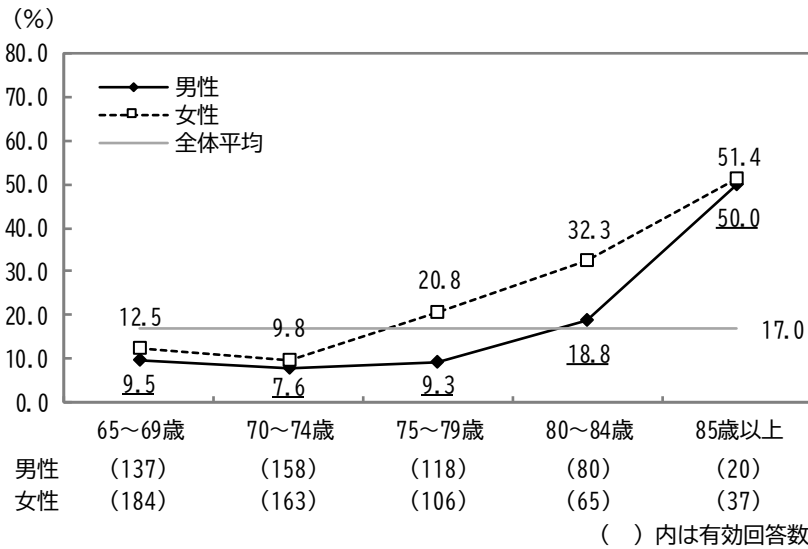
問番号	設問	該当する選択肢
問2 (6)	週に1回以上は外出していますか。	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

### 【リスク該当状況】

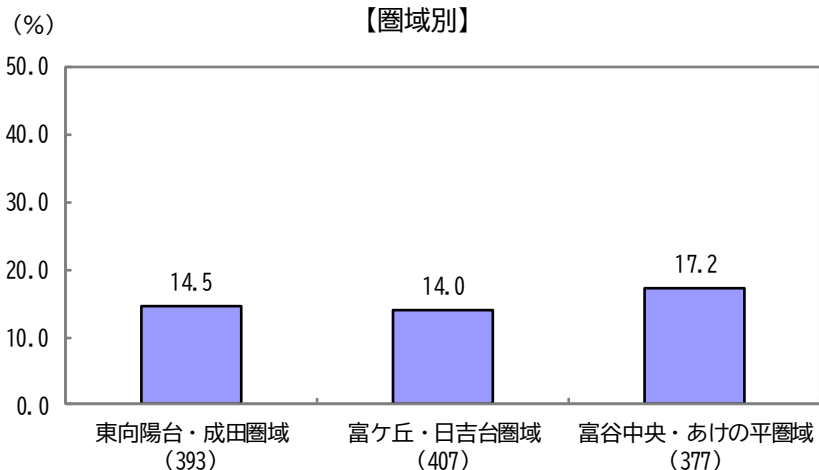
国の手引きに基づく閉じこもりの評価結果をみると、全体平均で17.0%が閉じこもりのリスク該当者となっています。

性別・年齢階級別にみると、女性では、すべての年代で男性に比べ該当者割合が高く、85歳以上では51.4%と80~84歳に比べ19.1ポイント上昇しています。一方、男性では、85歳以上では50.0%と80~84歳に比べ31.2ポイント上昇しています。また、男性、女性ともに85歳以上で加齢に伴う身体状態の悪化などにより急激に外出の頻度が減少しています。

【性別・年齢階級別】



圏域別にみると、富谷中央・あけの平圏域で該当者割合が全体平均の17.0%を超えています。また、最も高い圏域は富谷中央・あけの平圏域で17.2%、最も低い圏域は富ヶ丘・日吉台圏域で14.0%となっており、3.2ポイントの差となっています。



### (3) 転倒

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を転倒のリスク該当者と判定しました。

#### 【判定設問】

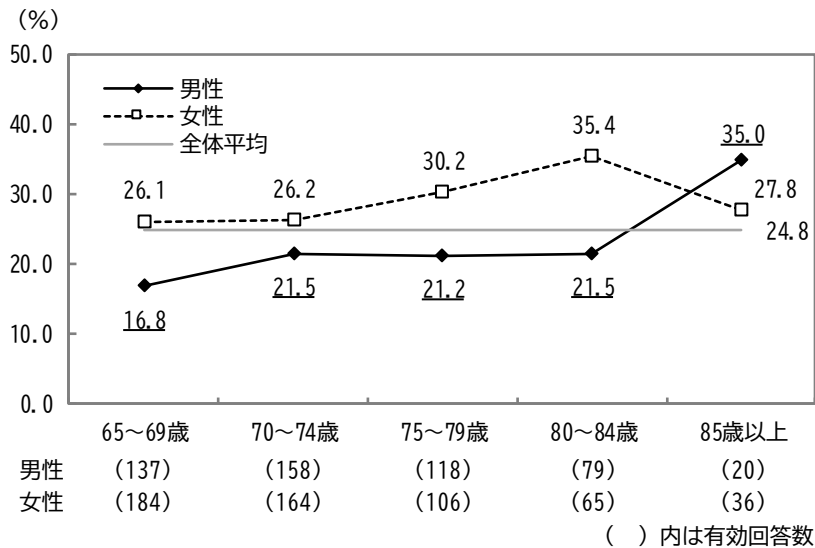
問番号	設問	該当する選択肢
問2 (4)	過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある

#### 【リスク該当状況】

国の手引きに基づく転倒の評価結果をみると、全体平均で24.8%が転倒リスクの該当者となっています。

性別・年齢階級別にみると、女性では、すべての年代で男性に比べ該当者割合が高くなっています。一方、男性では、80歳代以上になると全体平均より割合が高くなっています。

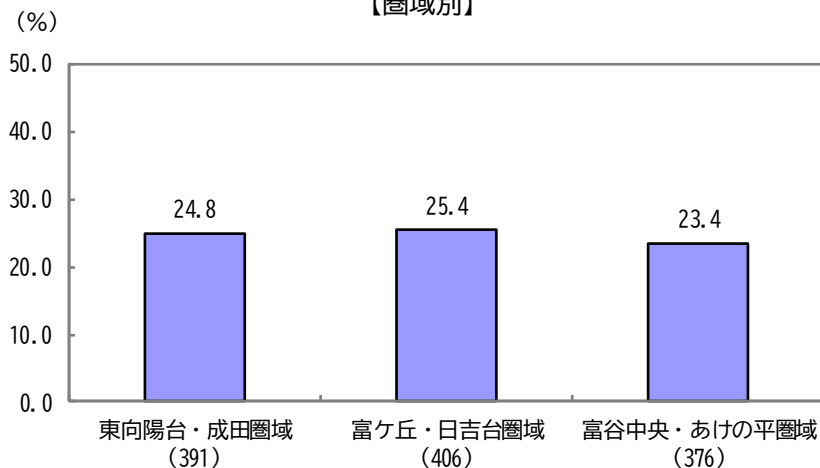
【性別・年齢階級別】



圏域別にみると、富ヶ丘・日吉台圏域で該当者割合が全体平均の24.8%を超えています。

また、最も高い圏域は富ヶ丘・日吉台圏域で25.4%、最も低い圏域は富谷中央・あけの平圏域で23.4%となっており、2.0ポイントの差となっています。

【圏域別】



## (4) 栄養

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、2項目のすべてに該当する人を栄養のリスク該当者と判定しました。

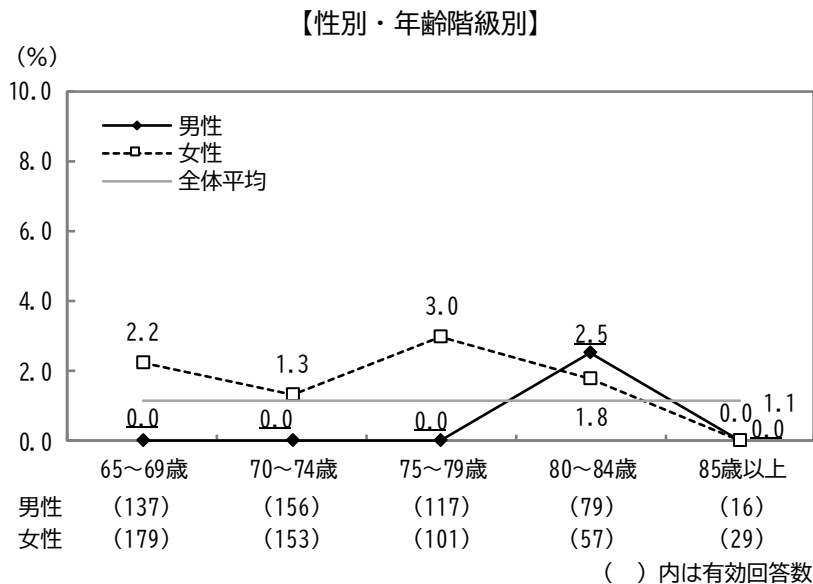
### 【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問3 (1)	身長・体重をご記入ください。	BMI 18.5 未満
問3 (1)	6か月間で2～3 kg 以上の体重減少がありましたか。	1. はい

### 【リスク該当状況】

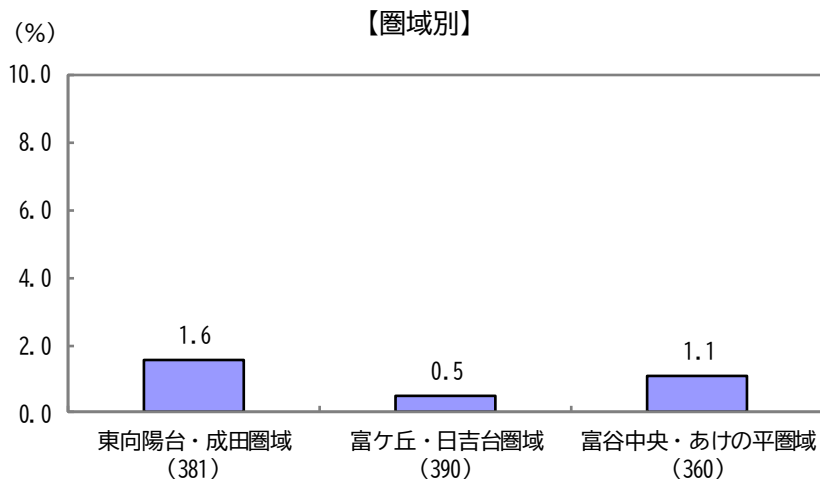
国の手引きに基づく栄養の評価結果をみると、全体平均で 1.1%が低栄養リスクの該当者となっています。

性別・年齢階級別にみると、男性と女性を比べると 75～79 歳でも 3.0 ポイントと大きな差はありません。



圏域別にみると、東向陽台・成田圏域で該当者割合が全体平均の 1.1%を超えています。

また、最も高い圏域は東向陽台・成田圏域で 1.6%、最も低い圏域は富ヶ丘・日吉台圏域で 0.5%となっており、1.2 ポイントの差となっています。



### (5) 口腔

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、3項目のうち2項目以上に該当する人を口腔のリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

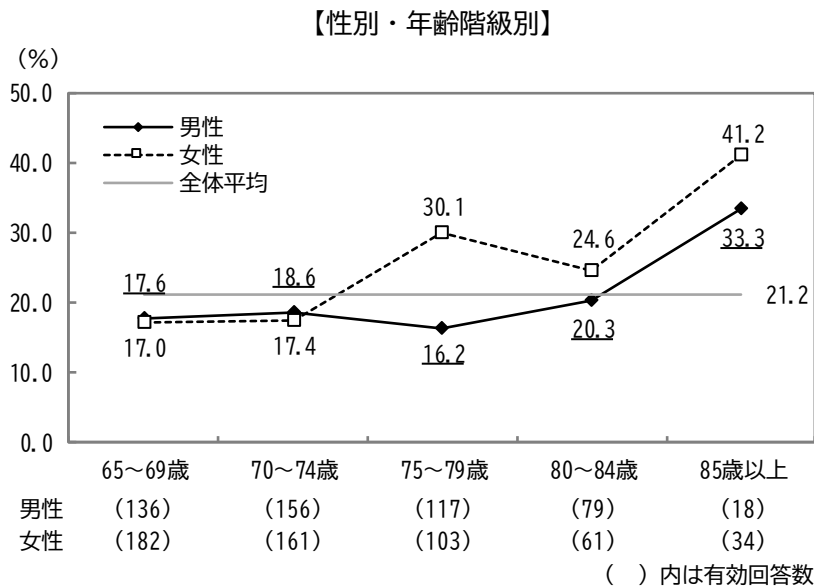
問番号	設問	該当する選択肢
問3 (2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	1. はい
問3 (3)	お茶や汁物等でむせることがありますか。	1. はい
問3 (4)	口の渇きが気になりますか。	1. はい

【リスク該当状況】

国の手引きに基づく口腔の評価結果をみると、全体平均で21.2%が口腔機能低下のリスク該当者となっています。

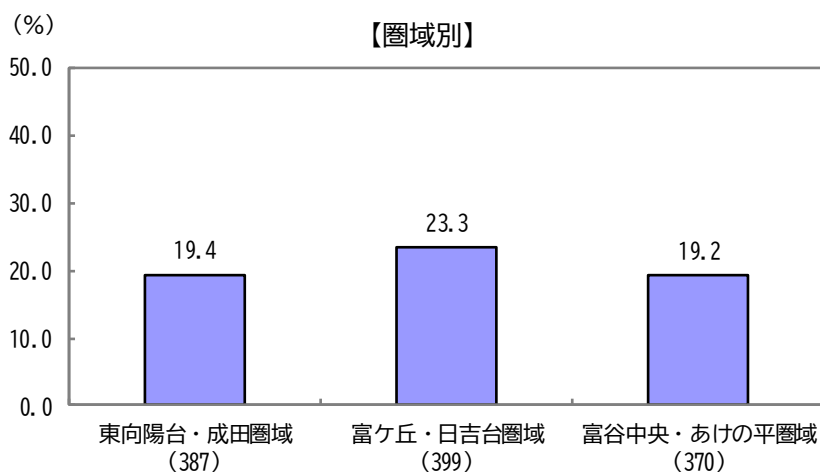
性別・年齢階級別にみると、女性では、85歳以上で41.2%と80~84歳に比べ16.6ポイント上昇しており、男性では、85歳以上で33.3%と80~84歳に比べ13.0ポイント上昇しています。

したがって、男性、女性ともに85歳以降で口腔機能におけるリスクが顕在化し、特に女性でリスクが高くなっています。



圏域別にみると、富ヶ丘・日吉台圏域で該当者割合が全体平均の21.2%を超えています。

また、最も高い圏域は富ヶ丘・日吉台圏域で23.3%、最も低い圏域は富谷中央・あけの平圏域で19.2%となっており、4.1ポイントの差となっています。



## (6) 認知

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、以下の項目に該当する人を認知のリスク該当者と判定しました。

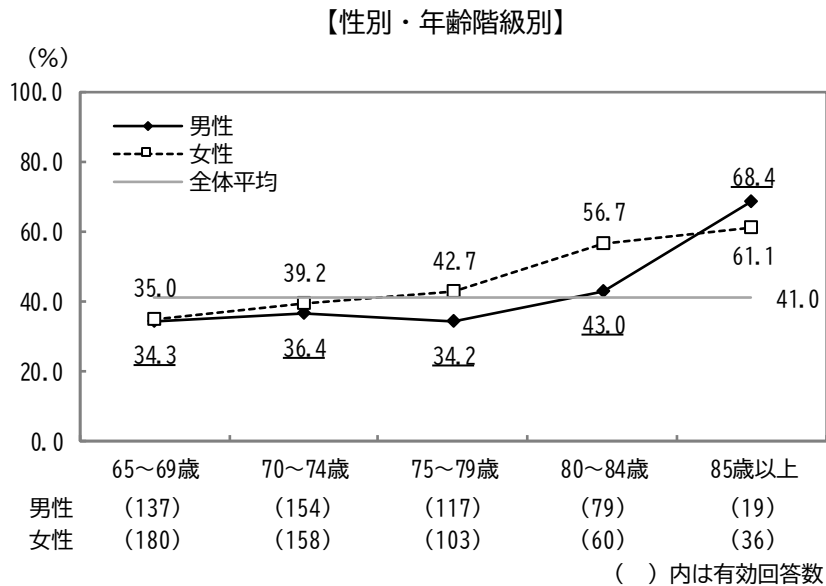
### 【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問4 (1)	物忘れが多いと感じますか。	1. はい

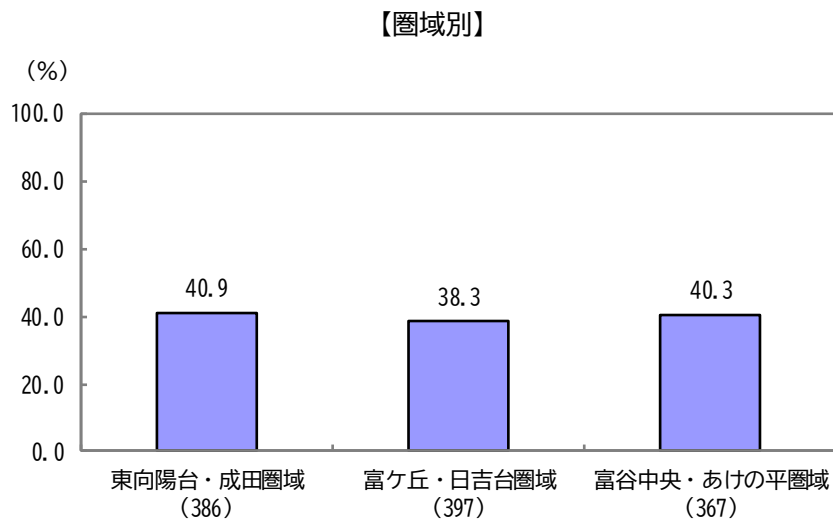
### 【リスク該当状況】

国の手引きに基づく認知の評価結果をみると、全体平均で41.0%が該当者となっています。

性別・年齢階級別にみると、男性、女性ともに年齢階級が上がるにつれて割合が高くなっています。また、85歳以上では、女性に比べ、男性で割合が高くなっています。



圏域別にみると、最も高い圏域は東向陽台・成田圏域で40.9%、最も低い圏域は富ヶ丘・日吉台圏域で38.3%となっており、2.6ポイントの差となっています。





## (7) うつ

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、2項目のうち1項目以上に該当する人をうつのリスク該当者と判定しました。

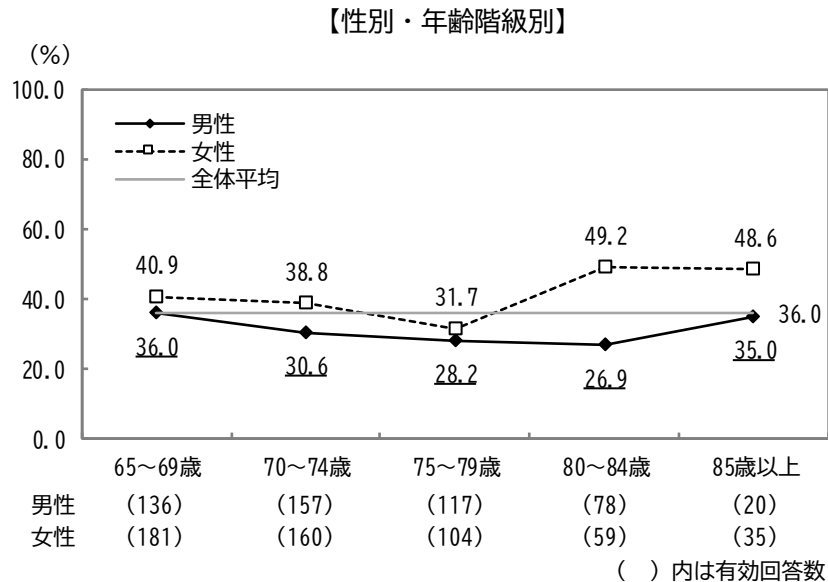
### 【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問7 (3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	1. はい
問7 (4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	1. はい

### 【リスク該当状況】

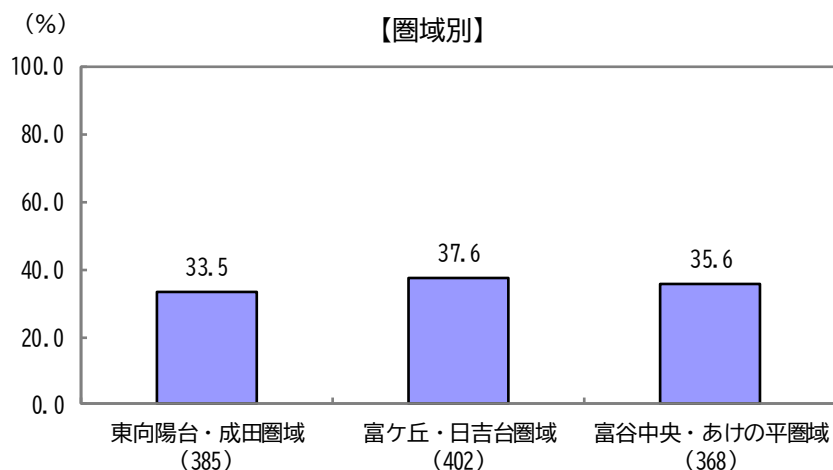
国の手引きに基づきうつの評価結果をみると、全体平均で36.0%が該当者となっています。

性別・年齢階級別にみると、女性では、80～84歳で49.2%と75～79歳に比べ17.5ポイント上昇しています。



圏域別にみると、富ヶ丘・日吉台圏域で該当者割合が全体平均の36.0%を超えています。

また、最も高い圏域は富ヶ丘・日吉台圏域で37.6%、最も低い圏域は東向陽台・成田圏域で33.5%となっており、2.1ポイントの差となっています。



## 2 日常生活

### (1) 手段的自立度 (IADL)

高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標には、高齢者の手段的自立度 (IADL) (※)に関する設問が5問あり、「手段的自立度 (IADL)」として尺度化されています。

評価は、各設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」と評価しています。

また、4点以下を手段的自立度の低下者とし、低下者の割合を示しています。

※「IADL」とは、「家事」や「電話対応」など、判断力を伴う日常生活を送る上での動作のこと。

#### 【判定設問】

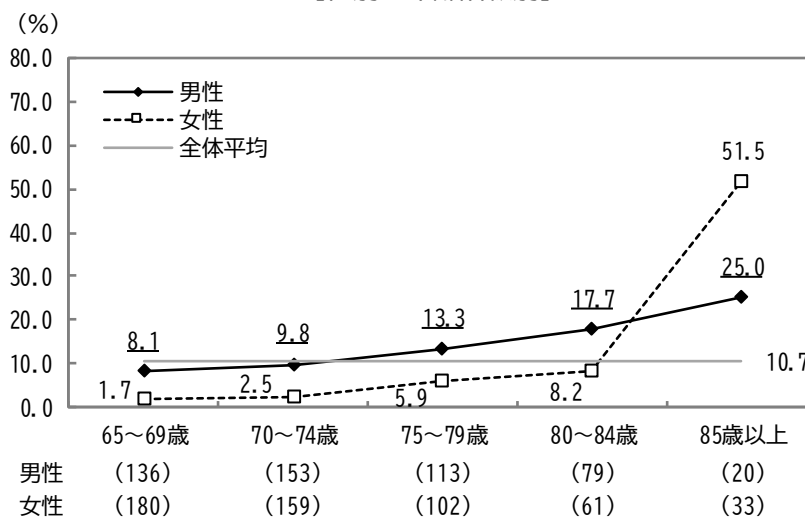
問番号	設問	該当する選択肢
問4 (4)	バスや電車を使って1人で外出していますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
問4 (5)	自分で食品・日用品の買物をしていますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
問4 (6)	自分で食事の用意をしていますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
問4 (7)	自分で請求書の支払いをしていますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
問4 (8)	自分で預貯金の出し入れをしていますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点

#### 【該当状況】

全体平均では10.7%が手段的自立度の低下者となっています。

性別・年齢階級別でみると、男性、女性ともに、85歳以上になると急激に上昇しています。男性では、85歳以上で25.0%と80~84歳に比べ7.3ポイント、女性では、85歳以上で51.5%と80~84歳に比べ43.3ポイント増加しています。

【性別・年齢階級別】



圏域別にみると、富谷中央・あけの平圏域で該当者割合が全体平均の 10.7%を超えています。また、最も高い圏域は富谷中央・あけの平圏域で 11.0%、最も低い圏域は東向陽台・成田圏域で 6.8%となっており、4.2 ポイントの差となっています。

